

本年度の教育計画

(1) 学校教育目標

- ・かしこく → 確かな学力をもち、よく考え、正しく判断する子
- ・やさしく → 思いやりをもち、みんなと仲良く協力できる子
- ・たくましく → 責任をもって最後までやりぬく意思と実行力があり、心身の健康と安全な生活の向上に努める子

(2) 目指す学校像

- 子供一人ひとりがのびる学校（学びがいのある学校）
- 教職員が互いに高め合う学校（働きがいのある学校）
- 保護者・地域とともに歩む学校（応援しがいのある学校）

(3) 目指す児童像

- 自ら進んで学習し、自分の意見・考えをもてる子
- 思いやりがあり、「ありがとう」と「ごめんなさい」が言える子
- 進んで運動に励み、何事にも最後までやり抜く子

(4) 目指す教師像

- 高い指導力のある教師
→ 資質の向上に努め、児童一人ひとりを正しく理解し伸ばす教師
- 豊かな人間性のある教師
→ 児童、保護者、地域から信頼される、礼儀、礼節、社会常識を備えた教師
- 使命感と熱意のある教師
→ 使命感と情熱をもって、将来の日本を支える人財を育成しようとする教師

(5) 学校経営方針（塚越小クオリティの確立・充実）〔The Tsukagoshi Quality 〕

「規律と自律、安心と安全」 地域と共に生きる塚越小学校

- ・規律→社会及び学校のルールや他人との約束を守り、やるべきことに真剣に取り組む「規律性」を身につけさせる。
- ・自律→「自ら考え、自ら判断し、自ら決定し、自ら行動する資質」すなわち「自律」する力を身につけさせる。
- ・安全→事件や事故、災害等から、全力で子供を守る。
- ・安心→いじめやもめごとを予防、早期発見・解決し、子供が安心して通える学校にする。
- ・コミュニティースクールの特性を生かし、経営方針を地域と共有して、地域社会全体で子供を育む。

(6) 本年度の指導の重点と具体的な取組

① 確かな学力の向上

- ・学習指導要領に則った着実な教育課程の実施と評価
- ・日々の授業の充実と研修の充実
- ・授業の時数と質の確保
- ・学習規律と基礎基本の確実な定着
- ・指導方法の工夫改善（少人数学習・習熟度学習・個別指導の充実）と「わかる授業」の展開

- ・全国学力学習状況調査、諸調査結果の検証と活用
- ・学力向上プランの活用改善と学力向上委員会の活性化

②豊かな心を育てる教育

- ・子供が安心できる、自治能力の高い集団を育成する学級経営の充実
- ・生活振り返りカードを活用した基本的生活習慣の確立
- ・思いやりの心と人権を尊重する心を育成する道徳教育・人権教育（道徳の授業と特別活動の充実、絆ムーブメント活動）
- ・あいさついっぱい運動、縦割り活動、モクモクテキパキ清掃の推進
- ・音楽活動の充実（朝の歌声いっぱい活動や校内音楽会の実施）
- ・地域人材・関係団体を活用した体験活動の推進（自然体験・福祉体験等）
- ・全校読書活動の推進（読書登山カードの活用、年間20冊以上の読書）
- ・生徒指導・教育相談体制の充実（教育相談日の設定）

③健康でたくましい体力をつける教育

- ・全校活動による体力づくり（体育集会・持久走タイム・投力アスレチック・縄跳び・遊具を活用した体力づくりなど）
- ・体育授業の工夫・改善（慣れの運動や補強運動、「塚小っ子体操」の実践など）
- ・新体力テスト結果の分析と活用
- ・健康管理体制の充実（保健便り等を活用した早ね・早起き・朝ごはんの啓発や諸情報発信、歯磨きタイム、養護教諭による保健学習 TT、アウトメディアの取組）
- ・安全体制の充実（安全点検の徹底・通学路点検・登下校指導の充実）
- ・危険回避能力を育成する防災・防犯教育の推進（災害・不審者対応避難訓練の実施）
- ・食育の推進（エコクッキング、栄養士による食育授業、米・野菜作り、献立作成）

④家庭・地域と連携した教育

- ・コミュニティスクールを生かした地域連携の推進（地域人材の活用、小中連携、小小連携など）
- ・登下校の安全の確保（PTA あいさつ運動、地域お帰り隊の下校指導、スクールガードリーダー・交通指導員・保護者の立哨指導）
- ・学校応援団の積極的活用（学習支援・環境整備・安全支援・読み聞かせ・水泳・ミシン・掲示作成等のボランティア、ふれあいワークデー等）
- ・地域ゲストティーチャーの活用（米作り、機織体験、租税教室、キャリア教育等）
- ・HP の充実（積極的な情報発信）

⑤効率的な組織運営を生かした教育

- ・校長を中心とした機動的な運営組織の確立（役割と責任の自覚と協働性の向上、職務系統の重視）
- ・いじめ防止対策強化（塚越小学校いじめ防止基本方針に則った組織的対応）
- ・職員の服務規律の確保と健康維持管理・危機管理体制強化・事故防止の徹底（倫理確立委員会の開催、ボトムアップによる研修体制など）
- ・各主任のリーダーシップの発揮
- ・報告・連絡・相談・確認の徹底（『10分ルール』の徹底）
- ・C4th（校務用パソコン）を活用した効率的な連絡体制と教務用務の推進
- ・人事評価・学校評価の活用（PDCA サイクルを生かした改善推進）
- ・施設・設備の安全確保と整理整頓・美化の推進
- ・教職員研修の充実と指導力向上（課題研修・若手研修等）
- ・掲示教育・掲示環境の充実（特に児童の作品は大切に扱い、多くの作品を美しく掲示）